

学 校 教 育 目 標	心豊かな子 たくましい子 自ら学ぶ子
目 指 す 学 校 像	子どもたちが嬉々として登校し充実感に満ちて家路につく学校 ～みんな友達 笑顔の原小～
重 点 目 標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 2 心身ともに安心・安全な学校生活の構築 3 学校、家庭、地域が、各々の役割を果たし連携し信頼し合う開かれた学校づくりの推進 4 リフレッシュ工事に伴う安全確保、及び子どもが安心できる環境づくり 5 「働きやすさ」と「働きがい」のある職場環境づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、概ね良好な結果である。 ○9割ほどの児童が、授業を通してできるようになったことがあると達成感を感じている。 <課題> ○全国学力・学習状況調査等の結果から、自分の考えをまとめることや、既習事項を用いた解答に苦手意識がある児童が多い。 ○4割ほどの児童が、進んで発表することに苦手意識をもっている。 ○発達段階に応じたタブレットの活用スキルを計画的に高めていく工夫が必要。	・「学びのポイント（じ・し・ゃ・く）」の視点に基づく授業改善	①「学びのポイント（じ・し・ゃ・く）」を単元計画に盛り込み、探求的な学びを推進する。 ②「児童を主語」にした授業計画・実践を積み重ね、児童のエージェンシーを育む。	①学習課題や学習計画を児童が決める場面を設定できたか。 ②仲間と協力して考えたり、仲間の考えを参考にしながら自分の考えをもったりする場面を設定できたか。 ③学びを振り返り、新たな課題を見つける場面を設定できたか。				
		・さいたま市スマートスクールプロジェクト（SSSP）の更なる推進	①タブレット学習の時間を毎週定期的に実施する。 ②ICT活用系統表を作成し、学年ごとに身につけたいスキルを示す。 ③個別最適な学びのツールとして、タブレットを効果的に活用する。	①各学級でタブレット学習を定期的に実施することができたか。 ②ICT活用系統表をもとに、児童のICTスキルを高めたか。 ③児童がICTを効果的に活用しながら個別最適な学びができたか。				
2	<現状> ○児童アンケート「毎日元気に登校している」の質問に対し、肯定的回答が95％である。 ○保護者や関係機関と連携し、児童が安心して学校にいられる環境づくりを進めている。 <課題> ○「誰かに相談できる」の質問に、2割ほどの児童が否定的な回答をしている。 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し組織的な支援体制づくりが課題である。	・自己肯定感・自己有用感を高める取組の継続	①道德教育の推進、児童を認める声掛けの継続等、児童の自己肯定感を高める教育活動を実践する。	①児童アンケート「学校への意欲」関連の肯定的な回答の割合が95％以上となったか。				
		・児童一人ひとりに寄り添った教育支援・相談体制の充実	①定期的な児童アンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握・支援する。 ②専門職による教育相談の調整等を継続して行い、学校に相談しやすい環境を整備する。	①学期に1回以上、アンケート及び面談を実施したか。 ②保護者アンケート「教育相談」の項目の肯定的な回答の割合が80％以上となったか。				
3	<現状> ○学校運営協議会において「豊かに関わる子どもたち」を目指すための具体的方策について熟議を重ね、地域の方々と児童とが交流する行事を実施した。 <課題> ○学校運営協議会における、児童の主体的な参加が定着していない。児童の意見が運営協議会に活かせるような工夫が必要。 ○コミュニティ・スクールの認知度を高めていく工夫が必要。	・学校運営協議会のシンカ	①学校運営協議会で熟議を重ね、目指す児童像の具現化や学校課題改善に向けての方策を見出していく。 ②委員会や児童会を中心に、互いに顔の見える交流活動を、ICT等を活用し企画、実践する。	①熟議を通して活動について具体的に計画し、関係団体等の協力を得ながら実践することができたか。 ②教員アンケート「学校と保護者、地域との連携」の項目で肯定的な回答の割合が90％以上となったか。				
		・目指す児童像を共有するための学校公開やICTの活用	①学校行事等の保護者・地域の方々への公開機会を精査する。 ②ICT等を活用し、学校運営協議会、コミュニティ・スクール、目指す児の姿についての情報を発信する。	①学校行事等の公開機会を、学期に1回以上設定できたか。 ②保護者、教員アンケート「情報発信」の項目で肯定的な回答の割合が90％以上となったか。				
4	<現状> ○リフレッシュ工事により、工事完了後の教室等は安全で衛生的な環境になっている。 <課題> ○リフレッシュ工事が今後約3年続くことに伴い、教育活動を停滞させない環境の整備、及び現状の環境下でも充実した教育活動の継続が必要。	・環境の変化に適応した教育活動の実践	①工事に伴う環境の変化に柔軟に対応し教育活動が停滞することのないように教室等の使用調整と安全確認の対応を不断に実施する。	①各教育活動に工事に伴う対応を折り込んだ計画を立案、実行できたか。				
		・安全できれいな学校の実現に向けた安全点検の実施	①施設設備に起因する事故を起こさないために、定期、臨時、日常の施設設備の安全点検を確実に実施し、不具合への対応を迅速に行う。	①保護者、教員アンケート「安全」の項目で肯定的な回答の割合が90％以上となったか。				
5	<現状> ○不断の授業改善に向け、教員一人ひとりが当事者意識をもって研修に臨んでいる。 ○学校全体としても個人レベルでも、働き方の効率化が進んでいる。 <課題> ○学校課題研究を効果的に行之、日頃の授業におけるICT活用の更なる工夫改善が必要。 ○教員が「働きがい」や「やりがい」を実感することができる取組が必要。	・「働きがい」を育む授業改善研修の充実	①各教員が目指す児童像を理解し、その具現化に向けた授業を年間1回以上公開する。 ②教員が校内で自己研鑽ができる研修体制を整える。	①授業を教員が年間に1回以上公開することができたか。 ②教職員アンケート「意欲・資質向上」の項目で肯定的な回答の割合が90％以上となったか。				
		・「働きやすさ」を感じることができる業務改善策の具体化	①業務改善委員会を定期的に開催し、具体的提案を検討する。その内容を、全教職員で共有し実践する。	①業務改善委員会からの具体的な提案を共有し、実践することができたか。				